お知らせ

11月10日（火）午後２時よりインフルエンザの予防接種を住民センターにて行います。予約した方は忘れずにお越しください。

岩沢通信

第９４号
２０１８年5月２５日創刊
発 行 岩沢アチコタネーゼ・岩沢分館
岩沢地域振興協議会・岩沢福祉会
編 集　石曽根 徹(地域づくり支援員)

価格に翻弄された昨年を乗り越えて

ふるさと納税返礼品発送好調スタート

岩沢地域でも稲刈りがほぼ終了し、アチコタネーゼによる令和８年産米ふるさと納税返礼品の発送が10月9日から始まった。

昨年は令和の米騒動として初回に大量の注文が入り、今年はコメ価格の下落から、申込が減るのではないかと心配されたが、初回の発送は20口（約1俵半）とまずまずの滑り出しとなった。

係では、小千谷市産業開発センターのふるさと納税係から入ってくる出荷依頼データを一つ一つ確認し、精米、送り状の印刷、袋詰め、梱包を行った。

駒井和彦代表は「アチコタネーゼの貴重な収入源として担っているので、市外の親戚や知り合いにぜひ紹介してもらいたい」と話す。

アチコタネーゼのふるさと納税の品々はふるさとチョイスで取り扱っている。





ふるさとチョイスホームページ
https://www.furusato-tax.jp/?header

同じ思いをした地域の力に
熊本地震へ寄付

岩沢アチコタネーゼでは熊本地震で被災した地域を応援しようと８月１日から31日まで、山紫や住民センターで災害義援募金を行ってきた。

その合計金額は２１，２５７円となり、９月17日集まった募金を市民義援金の窓口になっている小千谷市福祉課の渡辺英明課長に駒井和彦代表から贈呈した。





買物困難者に新たな展開
出張販売会再開

車両故障により休止していた「角上魚類」の移動販売が10月２日再開された。

午後２時10分販売開始予定の前に既に住民センターには５名程の人が車両の到着を待ち、少し遅れて扉が開かれると大勢の人が品定めをしていた。

この日はここの販売が最終場所ということもあり、最初から「刺身は半額でいいよ」という声に、お客は喜んで飛びついた。また、午後には「ももたろう」の

移動販売もあったが、住民センターでの利用が少ないため、次回からは岩沢保育園駐車場での販売に移行する事とした。







みんながスター！笑顔いっぱい 仲間と協力してがんばろう！









総合支援学校スポーツフェスタ

9月19日(土)小千谷市総合体育館メインアリーナを会場として、第12回小千谷市立総合支援学校のスポーツフェスタが開催された。

会場には小学部、中学部、高等部のスローガンパネルが設置され、各学部とも工夫を凝らした種目に全力で取り組んでいた。

南小中学校の方向性は

委員会がアンケート報告

南部地域の学校・教育環境に関するアンケート結果の報告会が、9月24日克雪センターを会場に開催された。

冒頭南部地域学校の在り方検討プロジェクトの関麻紀代表は「このプロジェクトは子どもたちと地域の将来にとってより良い学校の在り方として、統合への賛否を先に決めるのではなく、保護者・地域住民などが公平に参加し南部地域にどのような学校が望ましいかを中立的かつ透明性のある形として取り組むものです」と挨拶。アンケートの結果報告では、概要が説明され、少人数による授業の手厚さが評価されるという一方で、人間関係の固定化や逃げ場の少なさ。部活動・行事の制約など多岐に渡る意見があったと説明。これは結論が出たわけではなく、今後の検討の参考にするという趣旨が説明された。参加者からは、もし統合となった場合、その前後に教職員の増員があるのかや、他の地域の状況はどうなっているのかなどの質問が出された。





松井周之輔教育長からは「地域の結論を持って、学校整備委員会で検討したい」などの発言があった。

今年の反省と来年度に向けて

岩沢まつり決算報告

8月15日に開催された「第33回岩沢まつり」の決算報告と反省、来年度に向けての本部会議が9月29日住民センターにて、実行委員役員を集めて開催された。

冒頭に実行委員長である長谷川正夫振興会長から「実行委員皆さんの協力で無事祭りが開催できたことに心から感謝します。会議では予算の見直しも含めた中で、活発な協議をお願いします」と挨拶。その後事務局より決算報告がなされた。総括では「諸物価の高騰で繰り越し額が縮小しているが、それに見合った内容の見直しも、して良いのではないか」「花火の番付表は同じ号数なら文字も同じポイントにするべきだ」などの意見が出された。



編集後記

表面にあるように、ふるさと納税返礼品令和8年産新米の出荷が始まりました。今年はどこの農家に聞いても夏から秋の長雨にやられて、稲が倒れ稲刈りに苦労したとの声が聞かれました。まして昨年の「令和の米騒動」の反動を受けて米余りと価格の下落により農家は厳しい状況に追いやられています。これでは離農する農家も増えるのではないでしょうか。

そんな中、10月の2日から約1週間明治大学の学生が小千谷市の農業法人に入り作業を手伝いました。若栃では倒れた稲の引き起こしが9人の学生により行われ、米作りの大変さを学んだようです。

研修の学生が将来どのような道に進むかは分かりませんが、少しでも農家の負担を減らし所得が増えるような分野に進んでくれることを願います。・・・・・（I）

